

耕作放棄地の再生



重機による整地 農地の再生完了！



大型機械での草刈り



雑草が繁る耕作放棄地

コケの栽培から収穫まで



マット状のコケを収穫



遮光ネットをかけてコケの飛散防止

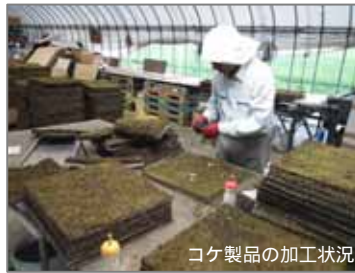


コケの吹き付け

コケの加工から出荷まで



製品の完成・出荷



コケ製品の加工状況



収穫されたコケを切断

案内マップ



緑化資材としてのコケについて話す山本正幸さん

お問い合わせ先

株式会社モス山形 代表取締役 山本正幸

山形市中沼43-5(コケ植物栽培畑 山形市上東山地区)

TEL:023-666-6605 <http://www.mos-yamagata.com/>

耕作放棄地を活用した

コケ植物の栽培

耕作放棄地の再生

国道286号から山形市高瀬地区方面に北進し、べにばなトンネルを抜けると、道路脇一面に広がる黄緑色の畑に目を奪われる。「何の畑だろう?」見たことのない山間の風景に驚かされる。

この畑は以前、耕作することをやめたために荒れ果てた農地（耕作放棄地）であった。この耕作放棄地に目を付けたのが、山形市内でコケ植物栽培の会社を営む山本正幸さんである。山本さんは地主から土地を借り受け、そして再生させ、現在、コケ植物の栽培を行っている。山本さんは山形県内で山形市だけでなく、酒田市でも同様の取り組みを行っており、約10ヘクタールもの耕作放棄地を再生し、コケ植物栽培を行い、さらには地元中高齢者の雇用を図るなど、地域に貢献している。

緑化資材としての「苔」

近年、地球温暖化、都市のヒートアイランド化現象を背景に、建物屋上・壁面緑化の緑化資材としてのコケ植物の利用に注目が集まっている。これは、コケが乾燥に強く、水かけなどの管理がほとんど不要であること、また、根を生やすための土壌もいらないので軽量化が可能であること、さらに、自重の20倍の保水能力を持つ優れた緑化資材だからである。山本さんは、耕作放棄地を解消しながら、緑化資材としてのコケのさらなる普及を進めていきたいと話してくれた。



